# 大切なのは「いのち」とは何かを学び、その尊さを知ること はばたけ！ 未来への夢に若さを託す獣医師の卵たち

## 獣医師になるには

毎年、獣医師国家試験に合格する獣医学生の数は約1,000名。「女性の時代」といわれる時代背景もあってか、最近、女子学生も大変増えています。

獣医学教育の履修過程は、全国に16校ある獣医学系大学における6年間。多様なカリキュラムをこなし、動物たちとのつきあいを深めながら、厳しい臨床実習などを乗り越えていかなければなりません。未来への夢に燃えて、動物の「いのち」の不思議と驚異を学ぶ獣医師の卵たち。その目は希望に満ちています。

獣医師になるためには、まず、獣医学部（科）のある大学に入学し、教養科目や獣医学に関する専門教育を受ける必要があります。そして、6年間の獣医学教育を履修したのち、農林水産省が行う獣医師国家試験（毎年1回、2～3月）を受験しなければなりません。試験は、学説に関する試験と実地に関する試験が行われます。

獣医師国家試験に合格しただけでは獣医師の資格は得られません。国家試験に合格したら、農林水産省に免許の交付申請の手続きを行い、獣医師名簿に登録されるとともに、農林水産大臣から獣医師免許証が交付されてはじめて獣医師としての資格を取得することができます。

■獣医師になるまで

獣医系大学入学 → 6年間 → 獣医系大学卒業（◎獣医師国家試験の受験資格を取得） → 獣医師国家試験を受験（毎年1回、2～3月） → 獣医師国家試験に合格 → 農林水産省への登録申請 → 獣医師名簿への登録 → 獣医師免許取得 いよいよ獣医師に！

◎獣医師免許が必要な国家公務員・地方公務員の場合
公務員試験を受験→合格

小動物診療でも産業動物診療でも、臨床業務に従事する獣医師は、大学を出て国家試験に合格したからといってすぐに独り立ちできるわけではなく、少なくとも2～3年は臨床経験を積む必要があります。このため、農林水産大臣の指定する卒後臨床研修施設における研修のほか、小動物診療の場合は、動物病院などで研修医として勤務しながら勉強し、また、産業動物関係では農業共済団体の家畜診療所などに勤務し、先輩獣医師と一緒に実地に診療活動に従事しながら経験を積んでいかなければなりません。

また、獣医師の資格を必要とする国家公務員や地方公務員の場合は、まず、獣医師国家試験にさきがけて行われる公務員試験に合格する必要があります。



### 獣医系大学で学ぶことが獣医師への第一歩 大学では、獣医師になるために必要な知識や、「いのち」の尊さを学びます

■獣医系大学

◎国立大学（10校）
北海道大学／帯広畜産大学／岩手大学／東京大学／東京農工大学／岐阜大学／鳥取大学／山口大学／宮崎大学／鹿児島大学

◎公立大学（1校）
大阪府立大学

◎私立大学（5校）
酪農学園大学／北里大学／日本獣医生命科学大学／日本大学／麻布大学

大学で学ぶ主な科目

［基礎獣医学］
獣医解剖学、獣医生理学、家畜生化学、獣医薬理学、獣医微生物学、獣医寄生虫学、獣医病理学など

［臨床獣医学］
獣医内科学、獣医外科学、獣医臨床繁殖学、獣医臨床病理学、獣医放射線学など

［応用獣医学］
獣医公衆衛生学、獣医伝染病学、獣医衛生学、実験動物学、魚病学など

■獣医師国家試験の出題内容および近年の合格者数と合格率

・獣医療の基本的事項
・獣医学の基本的事項
・衛生学に関する事項
・獣医学の臨床的事項

［獣医師国家試験の合格者数および合格率］

獣医学教育の現場から

### 動物への愛情は獣医師の原点。しかし、それだけではなく "人と動物の暮らしを守る"という信念が必要です

獣医学教育は6年制です。カリキュラムは大学によって若干の違いはありますが、1～2年次は一般教養と若干の専門教育、3年次から専門教育に入り、4年次以降は実習を含めた専門教育が行われます。獣医師とひと口でいってもその活動内容は多岐にわたっています。大学教育は、それらのすべての専門領域を詳細に教えることはできません。そのため、獣医師免許取得後、それぞれが従事する分野において勉強の日々が続きます。獣医師が働く場所は「いのちの現場」でもあります。若き獣医師たちは、知識や技術だけでなく、「いのちの意味」も学ばなければなりません。

大型動物を使った臨床実習

### 獣医学教育の改善・充実に向けた日本獣医師会の取り組み

これまでご紹介してきたとおり、多様な職責を担う獣医師を養成する獣医学教育の実施体制については、大学における教育年限が4年から6年に延長されてすでに30年が経過しますが、獣医学教育を担う教育組織が農学系学部の1学科にすぎない大学が多くあるなど、教育環境は十分とは言えないのが実情です。教育の要である教員数の確保が進まず、獣医師国家試験の出題範囲に対応した講座（研究室）数を大きく下回る大学も存在しています。獣医学教育機関として国際認定基準に適合する大学はありません。

日本獣医師会では、こうした状況を改善するために関係者の皆様と連携して様々な取り組みを続けています。近年では、各大学における教育体制の充実に加え、複数大学間における共同学部や共同教育課程、共同学科の実施など、少しずつ成果があらわれ始めています。